

フルタイムからシムビコート変更時における服薬サポート結果の報告

下北沢店

○井原みゆき、堀川純美恵

はじめに：近年、喘息治療は気道の慢性的な炎症を、ステロイド吸入剤を使って治療することに重点が置かれるようになった。吸入剤の種類も様々な剤型が発売され、即効性のあるもの、発作予防型のものなど薬効も様々で、我々薬剤師による患者サポートもますます重要なものとなっている。下北沢店では、近隣の一般内科からフルタイムが処方されることが多かったが、2010年1月より、シムビコートタービュヘイラーが採用され、フルタイムから変更された患者が何例かあった。剤型変更となるため、初回変更時は必ず吸入手技の説明が必要になる。また、発作予防型薬剤から即効性と予防作用を併せ持つ薬剤への変更となるため、効果実感の変化、使用感の変化も伴うことが予想される。そこで、フルタイムからシムビコートに変更になった例を抽出し、吸入治療がスムーズに行われたか、調査したので報告する。

方法：2009年のフルタイム、アドエア使用患者をレセコンで抽出。

2010年1月1日から2010年9月20日の間にシムビコート変更例を抽出、その後の使用状況、処方状況などを調査した。効果の判定は患者の使用感、訴えを根拠とした。

結果：H21年のフルタイム使用患者は169名。うち、15名がシムビコートに変更。アドエア使用患者は2名。うち、1名がシムビコートに変更。全16名のうちフルタイムに戻った例が2例あった。1例は診察による処方変更で患者の効果減弱感や操作不備などの理由ではなかった。もう1例は吸っている気がしないので元の薬に戻してもらったという患者側の希望であった。

使用感：吸入できているのか分からない4例、粉っぽさがなくていい1例

効果実感：今までよりいいと思う 5例

吸入手技：1回目はできなかつたがその後できるようになった 1例
1回目はできていなかったので2回目に再度説明 3例
1回しか来局していないので判定不能 3例
1回目のできた（他薬局で交付された経験あり1例も含）9例

考察：効果減弱感を訴えた例はなく、薬効を実感しやすい薬剤と言える。手技が1回で理解できなかった平均年齢は1回で理解できた例より高く、高齢者の剤型変更時には特に留意する必要がある。また、手技の確認は初回以降も必要であると分かった。シムビコートはフルタイムより粉っぽさが少ないのが特徴だが、その特徴が逆に好みに合わない、きちんと吸入できているかの不安に繋がる例もあったので、処方変更時の服薬サポートにはこの点に言及する必要があると考える。今後は2回目以降の指導で手技が確実に変わったかを更に追跡していきたい。